

〔『未知への挑戦』とくしま行動計画』及び 『v s 東京』とくしま回帰』総合戦略〕の評価方法（案）

1 基本的な考え方

『未知への挑戦』とくしま行動計画』は、令和元年度から令和4年度までの4年間を計画期間として策定されたものであり、今回はその最終年度である4年目の評価を行う。

『v s 東京』とくしま回帰』総合戦略』は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間として策定されたものであり、今回はその3年目の評価を行う。

昨年度に引き続き、評価基準を客観化し、「委員からの提言」に重きを置く評価方法とする。

2 評価方法

（1）評価の対象

行動計画：「令和4年度の実績及び成果」

総合戦略：「令和4年度の実績及び成果」

（2）判定・評価の単位

ア 判定単位

行動計画：主要事業（654事業）

総合戦略：主要事業（279事業）

イ 評価単位

行動計画：主要施策（91施策）

総合戦略：具体的な施策（15施策）

(3) 判定・評価の基準及び手順

ア 判定

「数値目標」の達成率を基礎として、「主要事業」の達成率を算出し、次の区分のとおり、A、B又はCの3段階で、客観的、機械的に判定する。

第1段階 主要事業ごとの「判定」		
A	B	C
主要事業ごとの 数値目標の達成率の平均 90%以上	主要事業ごとの 数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要事業ごとの 数値目標の達成率の平均 80%未満

イ 評価

「数値目標」の達成率を基礎として、行動計画の「主要施策」または総合戦略の「具体的な施策」の達成率を算出し、次の区分のとおり、事務局が機械的な評価案を付す。

その評価案を参考にしながら、会議での議論を踏まえ、「順調」、「要注視」又は「要改善」の3段階で、評価を最終決定する。

第2段階 施策ごとの「評価」		
順調	要注視	要改善
施策ごとの 数値目標の達成率の平均 90%以上	施策ごとの 数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	施策ごとの 数値目標の達成率の平均 80%未満
委員からの提言を加味		

(4) 「主要指標」の達成状況の把握

4年間の計画期間が終了した行動計画については、主要施策の達成度合を示す「主要指標」の状況等を把握した上で、委員提言に繋げる。

3 「次期総合計画」につながるテーマごとの委員提言の集約

「県民目線・現場主義」の観点から、4年間の計画期間が終了した行動計画の施策や事業に対する「県民意見」を踏まえた上で、テーマごとに集中議論を行い、県が「今後進むべき方向性」について委員提言を実施する。

4 その他

行動計画と総合戦略の評価シートの統合は、行動計画の施策体系に総合戦略の主要事業を取り込む形で行った。このため、評価シート上、総合戦略の施策体系とは一致していない。

したがって、総合戦略の「具体的な施策」の評価は、行動計画の施策体系に沿って配置された総合戦略の「主要事業」ごとに協議した後、第3回の会議で「具体的な施策」ごとの評価をまとめて実施することとする。